

資料4. 対策計画一覧

目 標		対策方針 (課題解決の方針)		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体		
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助
I、区民の命を守る	【目標1】 建築物倒壊による 死傷者を減らす	1	住宅等建築物耐震化の促進	住宅・特定民間建築物の耐震化	耐震化に係る区民啓発（出前講習会の実施等）	ソフト		○	○					○
					分譲マンション耐震化アドバイザーの派遣	ソフト		○	○			○		○
					建築士会と地域が連携して無料相談会の開催	ソフト	○	○	○	○			○	
					地域住民、事業者、区の協力体制を図り、住宅の耐震化を進める制度の検討	ソフト	○	○	○	○		○	○	○
					診断・改修への補助の検討	ハード		○	○			○		○
				福祉施設の耐震化	診断・改修への割り増し補助の検討	ハード		○	○	○	○			○
				エレベーター、看板等による被害防止	エレベーターの閉じ込め防止、迅速な復旧のための啓発	ハード		○	○					○
					看板等の落下による被害防止策の普及・啓発	ソフト		○	○	○	○			○
		2	家具類耐震化の促進	家具類の転倒・落下防止、ガラスの飛散防止	住宅における家具類の転倒・落下防止器具等の取り付け支援	ソフト		○	○			○		○
					工場・事務室等における事務機器や什器等の転倒・落下防止器具の設置やガラスの飛散防止対策等の促進	ソフト	○	○	○			○		
		3	土砂災害対策の促進	がけ・よう壁等の安全対策の促進	がけ等の調査結果に基づく所有者への周知・啓発	ソフト		○						○
					区民への周知・啓発	ソフト		○	○	○	○			○
					がけ等の整備工事費の助成	ハード		○	○	○	○	○		○
		4	地盤液状化対策の促進	住宅地の液状化対策	液状化についての区民への周知・啓発	ソフト		○	○	○	○			○
					液状化に強い建物・地盤についての相談	ソフト		○	○	○	○			○
					液状化被害を受けた建物の復旧対策についての相談	ソフト		○	○	○	○			○
	【目標2】 延焼火災による死傷者を減らす	1	木造密集市街地の解消	大森中、羽田、西蒲田における防災まちづくり構築	防災街区整備地区計画の推進	ハード		○	○	○	○		○	○
					防災道路および沿道建物の不燃化	ハード		○	○	○	○			○
					連続立体交差事業と駅周辺の整備	ハード		○	○	○			○	○
					共同建て替え、不燃化促進による密集市街地の整備	ハード	○	○	○	○	○		○	○
					公園・広場等の整備による燃えない街づくりの推進	ハード		○	○	○	○		○	○
		2	安全な避難施設の確保	避難道路の整備	民間施設との避難所利用協定の締結	ソフト	○	○	○				○	○
					都市計画道路の整備	ハード		○	○	○	○			○
					ソーラーシステム等を活用した夜間照明の整備	ソフト		○	○	○				○
					誰にでも分かり易い避難所へのサイン表示	ハード		○	○					○
					防災訓練等による避難道路機能の地域への周知	ソフト	○	○	○	○	○		○	○

目 標		対策方針 (課題解決の方針)		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体				
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助		
Ⅰ、 区民の命を守る	【目標2】 延焼火災による死 傷者を減らす	3	防災まちづくり の推進	・地域の災害危険は、木造密集地域だけではなく全区 に広がっている ・区民の防災活動を推進するための活動拠点づくりな ど地域の状況に応じて推進する ・区民の防災まちづくり意識を醸成し、地域の防災ま ちづくりを支える仕組みをつくる ・地域の防災まちづくりを支える行政の体制づくり	ハード・ソフトが一体と なった防災まちづくり	区民防災まちづくり学校(仮称)の開催 (防災まちづくり知識の普及・意識の啓発、地域の防災まちづ りを推進するリーダーの育成)	ソフト	○	○	○	○		○	○		
						e－ラーニングを活用した体系的な防災教育の実施	ソフト		○	○	○	○	○		○	
						地域における防災まちづくりの実践	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						地域の防災まちづくりを支える行政の支援体制の構築(防災ま ちづくり支援制度の構築)	ソフト	○	○	○	○	○			○	
						幹線道路や区道沿道建築物の耐震化	ハード		○	○	○	○			○	
		4	消防・危険物対 策の推進	・延焼火災を防止するため、市民の初期消火能力の 向上を図り、消防活動環境を整備する ・作業所が保有する少量の危険物や化学物資等の震 災に伴う周辺市街地への影響を検討する	区民の初期消火能力の 向上	自主防災組織等による実践的な防災訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
						消防団との連携による地域防災活動への支援	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
					消防活動環境の整備	狭あい道路の解消、消防水利の整備	ハード		○	○	○	○			○	
						発災時における消防団の活動環境の確保	ハード				○			○		
					危険物等による被害防 止	東京都および消防署と連携した啓発活動の推進	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
	【目標3】 災害時要援護者の 安全を確保する	1	福祉避難所の運 営体制の確立	・福祉避難所の設置・運営体制について、関係者間の 協働による適切な運営がなされるよう、運営組織の枠 組みと運営方法を策定する ・福祉避難所の受け入れ基準について、適切な受入 がなされるよう発災時期や施設の保有設備の現況、 運営体制面などを踏まえて策定する	管理運営体制の確立	自家発電設備や飲料水の備蓄などの災害時に備えた設備の 整備	ハード		○	○	○	○			○	
						災害時要援護者受入れ協定の締結	ソフト	○	○	○				○	○	
						管理運営マニュアルの作成・共有	ソフト	○	○	○				○	○	
						災害時運営管理訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
					災害時受入れ基準の策 定	施設における受入れ基準の策定	ソフト		○	○						○
						訓練等の実施	福祉避難所運営協議会(仮称)の設置	ソフト	○	○	○				○	○
							災害時要援護者支援マニュアル(仮称)の作成 (移送ルール、施設の受入れルール、施設内の対応ルールな ど)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○
							災害時の移送・受け入れ訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○
		2	災害時要援護者 への支援体制の 確立	・災害時要援護者の実情を踏まえた支援体制を構築 する ・災害時要援護者の名簿について、支援機関・団体が 相互に活用できる名簿づくりを推進する ・地域における災害時要援護者への支援体制のあり 方について、保護者ネットワークや町会・自治会・ボラ ンティア団体・要援護者相互など様々な人たちが支え るしくみを構築する	支援体制の確立		災害時要援護者の状況を踏まえた支援体制の構築 (災害時要援護者支援マニュアル(仮称)の作成)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○
						保護者のネットワーク、災害時要援護者相互の支援など地域 における支援体制の構築	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
						要援護者支援機関や団体相互の活動を調整する連絡調整会 議(仮称)の設置	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
						災害時要援護者の「避難支援プラン」の作成	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						災害時に活用できる名簿の作成および名簿への登録の推進 (個人情報の目的外利用・第三者への提供が可能とされている 規定の活用を検討する)	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						災害時安否確認避難支援訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	

目 標		対策方針 (課題解決の方針)		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体			
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助	
Ⅰ、 区民の命を守る	【目標4】 円滑な情報収集・ 発信を実現する	1	情報連絡体制の 強化	区と地域の連絡体制の 強化	出先事業所の職員や地域の協力者による現場パトロールの体制づくり (マル緊職員の増員、地域パトロール協力者の確保と育成、現場パトロールにおける点検項目(チェックポイント)リストの事前作成、安全確認・情報収集を行うための双眼鏡、車両、連絡手段等装備の整備)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
					自主防災組織への情報活動支援 (情報機器の提供、組織化・初動訓練等への助成)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
					区と区外部(国、都、警察消防等関係機関)や地域間の情報受信訓練の実施	ソフト		○	○	○	○			○	
					区内部の連絡体制の強化	ハード ソフト		○	○	○	○			○	
					情報の整理・分析体制 の構築	本部体制における情報を整理・分析する要員の確保・育成を進める体制づくり	ハード ソフト		○	○	○	○			○
						情報の整理・分析力の強化を目的とした図上訓練の実施	ソフト		○	○	○	○			○
		2	情報連絡手段の 確保	区民への情報提供手段 の確保	情報提供手段の検討・調達 (防災無線、区ホームページ、区民安全・安心メール、掲示板、電子広告版、新聞折込、回覧板、商店街放送設備等の活用)	ハード ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
					区民等への情報提供に関する民間事業者との連携(コンビニエンスストア・新聞配達店等)	ソフト	○	○					○	○	
					地域での情報提供場所の検討 (避難所、公園、町会会館、商店街会館等)	ハード	○	○	○	○	○		○	○	
					庁内メールシステムの活用方策の策定及び災害時専用メールシステムの構築	ハード ソフト		○	○	○	○			○	
					掲示板システム等の活用方策の策定	ハード ソフト		○	○	○	○			○	
					優先的に集める情報の基準作成	ソフト		○	○					○	
		3	情報システムの 代替手段の確保	情報システムの代替手 段の確保	情報システムの代替手段の検討 (データのバックアップ、ダウンした時の復旧方法、データセンターの整備等)	ハード ソフト		○	○	○	○			○	
					情報システムを利用しない紙媒体による代替手段の検討 (各種書類のフォーマットの統一等)	ハード ソフト		○	○	○	○			○	
		4	情報連絡体制の ユニバーサルデ ザイン化	障がい者への情報提供 体制の構築	災害時要援護者名簿を活用した支援体制づくり	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
					外国人(旅行者)への情 報提供対策	外国人(旅行者)への情報提供及び情報共有方法の検討 (情報ニーズ、情報提供及び情報共有手段、外国語表示)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○
						外国人相談窓口の活用 (micsおた)	ソフト	○	○	○	○	○		○	○
					外国人(在住者)への情 報提供対策	外国人(在住者)への防災教育の実施 (防災研修、防災訓練、対応マニュアルの作成等)	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○
	【目標5】 安全な避難空間を 確保する	1	避難所等の安全 強化	避難所の安全強化	学校避難所の耐震・耐火化、バリアフリー化の促進	ハード			○	○	○	○			○
					避難所運営訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
				避難場所の再検討	避難場所の指定基準や方法および民間用地の活用等の検討	ソフト			○	○	○	○		○	○

目 標		対策方針 （課題解決の方針）		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体				
		課題解決の方針						実現するために大事にしたいこと		短期		中長期		自助	共助	公助
Ⅰ、 区民の命を守る	【目標5】 安全な避難空間を 確保する	2	集合住宅での居 住継続の推進	・集合住宅での居住継続を推進	「高層難民」数の軽減	集合住宅の安全対策の推進 （家具転倒防止策等の普及）	ハード ソフト	○	○	○			○		○	
						集合住宅での居住継続支援（助成） （防災組織の設置、応急対策、物資の備蓄等）	ハード ソフト	○	○	○			○	○	○	
		3	帰宅困難者対策 の強化	・3.11の対応の相対化 ・自助・共助・公助の役割分担をもとにした帰宅困難 者の一時収容のあり方の見直し	帰宅困難者対策方針の 見直し	帰宅困難者対応ルールの見直し （直接被害を受けた場合と受けていない場合を分けて対応を検討）	ソフト	○	○				○	○	○	
						事業者等に対する事業所責務の啓発 （従業員等の一時待機・仮宿泊への備え等）	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						ターミナル駅への区担当職員の配備の検討	ソフト		○						○	
					一時収容場所の確保	一時収容場所の追加指定方法の検討 （指定基準・方法、民間との協定締結方法等）	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
						傷病者の一時収容場所の検討	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
					帰宅支援方法の充実	帰宅支援道路の安全点検、川崎方面橋梁の混乱回避検討 （3.11の検証）	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
						帰宅支援ステーションの充実化 （水、トイレ等の備蓄）	ハード	○	○	○					○	○
		4	被災建築物によ る二次災害の防 止	・適切な二次災害防止対策	応急危険度判定の実施	被災建築物応急危険度判定のための整備・資機材購入	ハード		○	○	○	○			○	
						民間ボランティア等による応急危険度判定の実施体制の確保	ハード	○	○	○					○	○
	【目標6】 安全な場所へ誘 導・搬送する	1	迅速な避難誘導 の実施	・正しい情報の入手・伝達、限られた情報の中から住 民自らが考えて動ける判断力・実行力の養成 ・地域資源の活用	情報伝達・避難誘導訓 練の実施	「地域避難誘導マニュアル」の作成	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						シミュレーション型の避難誘導訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
		2	再避難対策の促 進	・避難場所、避難所等に集まった大勢の人々の安全 に配慮した、より安全な場所への避難誘導の実現	再避難時の安全確保	情報伝達方法や避難誘導等の検討	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
						避難誘導員（協力者）の確保	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
						誘導に必要な物品の調達 （トラメガ、誘導旗、ロープ等）	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
						避難経路へのサインの設置	ハード		○	○	○	○			○	
					避難誘導方法の周知	避難誘導方法の周知・啓発 （防災研修の実施等）	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
		3	傷病者の医療機 関への搬送	・医療機関とのネットワーク ・ヘリによる搬送 ・水上交通を利用した搬送 ・医薬品の備蓄	医療機関との連携強化	診療可能な医療機関の情報収集・発信・共有と連絡手段の確 立	ハード ソフト	○	○					○	○	
					患者の搬送手段の確保	重傷者の多様な搬送方法の検討	ハード ソフト	○	○						○	○
		【目標7】 迅速な医療救護を 実施する	1	医療救護体制の 確立	・医療救護のあり方について、関係者の有機的なつな がりのもとで医療救護活動が展開できるよう、救護所 配置計画や協定を見直すとともに、適切な連携が図 れるよう訓練の充実・強化方を策定する	医療救護体制の見直し	医療救護所の配置、活動内容の見直し （医療救護所活動マニュアルの見直し）	ソフト		○					○	○
							後方医療機関への搬送手段の検討	ハード ソフト	○	○						○
	医師会等との活動協定の具体化						ソフト	○	○					○	○	
	備蓄医薬品調達の検討・再配備						ハード ソフト	○	○	○					○	○
	広域的な支援の受入れ					保健師、看護師等の広域的な応援要請・受入れ態勢の確立	ソフト		○	○					○	○
	医療ボランティアの受入 れ					医療ボランティアの受け入れ体制の確立	ソフト	○	○						○	○
	災害時活動訓練の実施					医療機関等の関係機関が連携した医療救護訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○			○	○



目 標		対策方針 （課題解決の方針）		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体				
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助		
Ⅰ、 区民の命を守る	【目標7】 迅速な医療救護を実施する			災害時活動訓練の実施	区民に対する簡易な応急処置訓練等	ソフト	○	○	○	○	○	○	○			
		2	医療救護環境の整備	通信手段の確保	災対行政施設と拠点病院との通信手段の確保	ハードソフト		○				○	○			
				災害時医薬品の確保	日常の流通の中で備蓄するシステムを含む、医薬品の管理・供給体制について検討する	ハードソフト	○	○	○				○	○		
				医療活動環境の整備	医療機関における自家発電設備や上水確保方策の検討	ハードソフト	○	○	○	○	○		○	○		
					医療機関における上水供給手段の構築	ハードソフト	○	○	○	○	○		○	○		
				3	傷病者の医療機関への搬送【再掲】	医療機関とのネットワーク ・ヘリによる搬送 ・水上交通を利用した搬送 ・医薬品の備蓄	医療機関との連携強化	診療可能な医療機関の情報収集・発信・共有と連絡手段の確立	ハードソフト	○	○				○	○
		患者の搬送手段の確保	重傷者の多様な搬送方法の検討			ハードソフト	○	○					○	○		
	【目標8】 緊急車両の通行を可能にする	1	橋梁等の耐震化の促進	・防災上重要な橋梁等の耐震性を向上させる	緊急道路障害物除去路線に関連する橋梁などの架替・耐震性補強整備の促進	計画的な架替・耐震補強整備の推進	ハード		○	○	○	○			○	
					鉄道事業者と連携した耐震補強整備の推進	ハード		○	○	○	○				○	
		2	沿道建築物の耐震化の促進	・東京都により平成24年度から実施	緊急輸送道路及び沿道耐震化道路沿いの建築物の耐震化	特定緊急輸送道路沿道建築物への耐震診断の義務化（東京都、H24年度～）	ハード		○	○					○	
					特定緊急輸送道路沿道建築物の「耐震診断・改修への助成」	ハード		○	○				○		○	
					沿道耐震化道路沿いの建築物の「耐震診断・改修への助成」の検討	ハード		○	○				○		○	
		3	液状化による通行障害の防止	・幹線道路の液状化によるマンホールの浮き上がりを防止する	下水道施設の液状化対策	幹線道路の下水道マンホールの液状化対策の実施	ハード		○	○	○	○			○	
		【目標9】 円滑な災害時輸送を可能にする	1	地域の多様な資源を活用した災害時輸送ルートの確保	・陸・海・空を活用して輸送ルートを確認する ・民間事業者の力を活用する ・救援物資などだけではなく、負傷者、傷病者、帰宅困難者等を含めた輸送のしくみの検討	流通ルートの確保	水上輸送ネットワークの構築（広域輸送基地、水上輸送基地、地域内輸送拠点、防災船着場、舟艇接岸地点等を結ぶ）	ハードソフト	○	○	○					○
	宅配事業者による個別輸送のしくみの構築					ソフト	○		○	○	○			○	○	
	宅配業者、水運業者等との協定締結					ソフト	○	○	○	○	○			○	○	
	救援物資配送システムの構築					ハードソフト	○	○	○					○	○	
	【目標10】 津波による死傷者をなくす	1	津波からの避難態勢の見直し・強化	・津波被害想定に基づく避難実現が可能な津波避難場所を確認する ・津波からの迅速な避難を実現するための情報伝達方法、手段を確立する ・住民一人ひとりが津波災害に対する正しい知識を習得し、適切な津波避難行動を習得する ・災害時要援護者への迅速な情報伝達、避難支援を確認する	津波危険への再認識	「津波ハザードマップ」の作成・公表、区民への周知・啓発	ソフト			○	○				○	
					津波避難場所の見直し	ソフト			○	○				○	○	
					津波からの避難方法の確立	避難に関する確実な情報伝達体制の確立	ハードソフト			○					○	○
						避難に関する確実な情報伝達手段の確保	ソフト			○					○	○
						「津波避難マニュアル」の作成・公表、区民への周知・啓発	ソフト			○	○					○
						津波災害に関する区民教育、避難訓練等の実施	ソフト	○		○	○	○	○	○	○	○
					防御体制の整備	水門の緊急閉鎖の体制の強化および実施者の安全の確保	ソフト			○	○					○
					避難ビルの確保	既存建築物の所有者との協定締結や開発指導の協議時を活用した避難ビルの確保	ハードソフト	○	○	○					○	○
	【目標11】 放射能からの被害を軽減する	1	放射能災害対策の見直し・強化	・放射能災害発生時の区民の安全を確認するための体制を見直す ・健康被害、農作物への被害、風評被害などへの対策を検討する ・放射能あるいは放射能汚染に関する正しい知識を習得する	放射能対策の構築	地域防災計画における「放射能災害対応計画」の見直し（放射能災害への監視体制、情報提供のしくみ、避難の考え方を含む）	ハードソフト		○	○	○	○			○	
					区民の放射能災害についての知識強化	放射能被害、放射能災害への対応に関する情報提供、教育の実施	ソフト			○	○	○	○			○

目 標		対策方針 （課題解決の方針）		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体			
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助	
Ⅰ、 区民の命を守る	【目標12】 災害対応に必要なエネルギーを確保する	1	エネルギー対策の強化	非常用電源の確保	区、消防、医療機関等における非常用電源の確保対策の実施	ハード		○	○	○	○			○	
					太陽光や風力等を活用した電力供給の推進	ハード		○	○	○	○			○	
				燃料の確保	非常用電源、車両等の燃料確保対策の見直し	ソフト		○	○					○	
					燃料供給事業所との協定の締結	ソフト		○	○				○	○	
Ⅱ、 最低限の生活を守る	【目標13】 道路ネットワークを確保する	1	道路ネットワークの確保	緊急輸送道路ネットワークの確保	特別出張所や避難所等の公共施設相互を連絡のための道路ネットワークの確保	ハード ソフト		○	○	○	○		○	○	
					沿道建築物の耐震化の促進	ハード		○	○	○	○	○	○	○	○
				被災時の応急・復旧対応の向上	被災した区道・橋梁などの応急・復旧対策の手順・方法の検討	ソフト		○	○	○	○			○	○
	【目標14】 ライフラインの機能を維持・回復する	1	ライフライン機能の維持・回復	施設の耐震化	液化化ハザードマップの作成・普及	ハード		○	○					○	
					都と連携して下水道施設の液化化対策、下水道入孔と下水道接続部の耐震化の実施 （避難所における下水道直結式仮設トイレの利用を確保する）	ハード		○	○	○	○				○
					電線管理者と連携して、歩行空間の確保及び防災機能の強化のため電線地中化の推進	ハード		○	○	○	○				○
					駅前や商店街など電線地中化についての検討	ソフト		○	○	○	○		○	○	
				家庭・地域における備蓄や調達の推進	家庭・地域において備蓄・調達を要請、意識啓発の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					民間所有井戸、協定井戸の有効活用	ソフト	○	○				○	○	○	
	【目標15】 学校避難所を円滑に管理運営する	1	児童・生徒の安全確保	児童生徒の安全確保	平日、昼間発災時を踏まえた学校防災計画の作成と避難所運営マニュアルとの調整	ソフト	○	○					○	○	
				防災訓練の実施	乳幼児・児童・生徒、保護者、地域を含めた防災訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
				保護者への情報連絡	保護者との情報連絡手段の検討、児童生徒の安全情報の提供方法の検討 （大田区安全安心メールの活用、教育委員会、学校メールの活用、フェースブックやツイッターの活用など）	ハード	○	○	○				○	○	
		2	学校避難所の管理運営	避難所の管理運営に関する区民への周知と意識啓発	大規模地震時の被害状況や避難者の発生状況、学校避難所の管理運営の必要性などの周知	ソフト	○	○	○	○	○				○
					教職員の避難所運営への参加の検討	ソフト	○	○						○	○
					中学生による避難所運営への支援体制の確立	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
				訓練による災害時対応の習熟	「避難所開設運営マニュアル」に基づく訓練の実施及びマニュアルの検証・改善（生徒・職員の一待待機・仮宿泊への備え等）	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
				児童・生徒のボランティア活動	児童・生徒を対象としたボランティア活動参加プログラムの実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
		3	学校防災拠点の設置	学校防災拠点を設置し役割・活動体制を構築する	地域防災活動拠点の役割および活動体制の構築 （区立学校を「防災活動拠点」と位置づける）	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
					学校防災拠点運営マニュアルの作成および訓練の実施	ソフト	○	○	○	○	○		○	○	
	情報収集伝達ラインの強化			区行政と地域との情報収集伝達拠点の整備	ソフト	○	○	○	○	○			○	○	
				学校防災拠点を核とした情報収集伝達のしくみの構築	ソフト	○	○	○	○	○		○	○		
	【目標16】 地域コミュニティに配慮した応急住宅を確保する	1	応急住宅の確保の事前準備	応急住宅の確保	災害時の需要量や配置の検討	ソフト		○	○					○	
					民間住宅を含めた応急住宅の確保方策の検討	ソフト		○	○	○				○	
					民間住宅を含めた応急住宅の確保対策の実施	ソフト		○	○	○	○			○	
地域コミュニティの確保				応急住宅の地域コミュニティの確保方策の検討	ソフト	○	○	○	○	○		○	○		

目 標		対策方針 (課題解決の方針)		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体				
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助		
Ⅱ、最低限の生活を守る	【目標17】 広報・広聴を充実する	1	区民への広報・ 広聴手段の充実	・多様な媒体を活用した区民に対する最大限の広報・ 広聴の実現	区民への広報・広聴手 段の充実	情報提供手段の検討・調達 (防災無線、区ホームページ、区民安全・安心メール、掲示板、 電子広告版、新聞折込、回覧板商店街放送設備等の活用)	ハード ソフト		○	○						○
						災害時要援護者に対する情報提供パートナー(ボランティア) の養成	ソフト	○	○	○	○			○	○	
	【目標18】 物資備蓄の推進と 供給体制を構築する	1	物資備蓄・供給 の促進	・区・事業者・地域等の連携による円滑な物資供給・ 搬送の実現	家庭や事業者等における 自助努力の強化	区民・事業者等に対する物資備蓄の啓発	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					円滑な物資供給と搬送 の仕組みの構築	事業者等との協定にもとづく円滑な物資供給 (燃料の確保等も含む)	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
	【目標19】 防災コミュニティづく りで地域のつながりを 強化する	1	関係づくり・担い 手づくりの促進	・元気な子供・青少年・高齢者・事業者・外部支援者等 が参加しやすい環境整備の構築による防災コミュニ ティづくりの推進	防災コミュニティの充実	新しい防災コミュニティの設置・活動支援 (新しい防災組織・協議会等の設置、勉強会、防災計画、防災 訓練等)	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
						既存の自治会・町会等の活性化支援 (子供を通じた防災イベント、お祭りイベントの開催等)	ソフト	○	○	○	○	○			○	
					防災担い手の育成 (認定制度、防災研修、講演会、訓練等) 災害時ボランティアの受け入れ体制	ソフト	○	○	○	○	○					○
		2	消防団の環境整備	・発災時に消防団が最大限に力を発揮できるような環 境づくりを行う	消防団活動の向上	消防団の拠点施設の整備	ハード						○			○
		3	実践的な防災訓練 の推進	・「想定外」と言い訳しないための、想像力の醸成・実 働能力の練磨 ・被災地(東松島市等)とのつながりを活かした防災訓練 ・防災教育の実施	実践的な防災訓練の普及	防災訓練の企画支援 (防災専門家の派遣、参考事例の紹介、防災訓練実施主体の 発掘等)	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
						防災語り部の派遣 (災害ボランティア活動参加者、東松島市住民など東日本大震災 での経験者等)	ソフト	○		○	○	○	○	○	○	○
					区職員の防災意識の向上	区職員向け防災教育の推進 (防災研修、防災講演会、防災訓練等)	ソフト		○	○	○	○				
		4	災害ボランティ アセンターの運営	・災害ボランティアセンターの担い手の育成 ・蓄積した経験と知識の学校・地域の防災教育への 活用	ボランティア調整セン ターを中心とした災害ボ ランティアセンターの運営	被災地支援ボランティア調整センター登録ボランティアの育成	ソフト	○	○	○	○	○	○			○
					ボランティア活動の地域 還元の促進	災害対応経験と知識のあるボランティアの学校・地域の防災教育 への活用	ソフト	○	○	○	○	○	○			○
		【目標20】 区民の防災教育を 強化する	1	区民防災教育の 強化	・防災情報や災害危険についての正確な情報の収集・把握 ・防災知識やボランティアの活用 ・NPOとの連携 ・児童・生徒に対する防災教育の促進	地域特性と被害状況の把握	地域特性と被害状況の把握ための区民向け防災教育の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○		
	予防、応急・復旧、復興 に係る防災対策の習得					自治会・町会や商店会等を通じた防災対策習得講座の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○			○
	防災知識の地域還元					防災知識等の還元方法の仕組みの構築	ソフト	○	○	○	○	○	○			○
	児童・生徒の防災教育 の充実					児童・生徒に対する質の高い防災教育の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○		
	【目標21】 地域の企業との関係 を構築する	1	企業の防災対策 の推進	・事業者の段階的な業務継続管理の実施による人・ 建物・モノ・情報・空間等の確保	中小企業の防災対策支援 体制の構築	中小企業向け業務継続管理の支援 (防災専門家の派遣、防災訓練等)	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					臨海部企業との連携の 促進	臨海部企業との連携のための活動環境の整備	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					協定締結事業者の実効 性の確保	協定締結事業者の災害時の実効性の検証および強化	ソフト	○	○	○	○	○			○	○
						協定締結事業者の区防災訓練への参加	ソフト	○	○	○	○	○	○	○		
		2	事業者・地域間の 関係づくりの 促進	・事業者・地域間の関係づくりについて、両者が連携 しやすくなるよう、参加メリットの共有・協定の締結・広 報協力等の環境づくり ・防災資機材や防災システム等の開発について、事 業者の技術力をうまく活かす ・事業者の(中高層かつ耐震性能が高い)社屋等への 避難者の受け入れ	事業者・地域間の交流 機会の創出	交流イベントの企画・実施への支援 (防災シンポジウム、防災イベントの企画、参加案内等)	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	
					事業者の技術力などの 防災対策への活用	防災グッズ商品化支援助成・推進 (防災グッズコンテストの開催)	ソフト	○	○	○				○		○
						防災資機材や防災システム等の開発の支援	ソフト		○	○	○	○	○			
					事業者の社屋などの防 災対策への活用	津波避難ビルの指定への協力依頼	ソフト	○	○	○	○	○				○

目 標		対策方針 (課題解決の方針)		対策項目	施 策 例	ハード ソフト	地域力 向上	実施期間				実施主体			
		課題解決の方針	実現するために大事にしたいこと					短期		中長期		自助	共助	公助	
Ⅱ、最低限の生活を守る	【目標22】 大量の災害廃棄物を円滑に処理する	1	災害廃棄物の円滑な処理の促進	・ゴミ・がれき処理のあり方について、安全・環境に配慮し、仮置き場・中間処理用地の事前確保による円滑な処理ができるしくみを構築する	災害廃棄物の処理方針の検討	安全・環境に配慮したがれき・ごみ処理方針の作成	ソフト		○	○	○	○			○
						道路の被害を考慮した収集・運搬計画の作成	ソフト		○	○	○	○			○
						一時保管、仮置き場等の検討	ハード		○	○	○	○			○
						廃木材処理への中小企業技術の活用	ハードソフト		○	○	○	○			○
						災害廃棄物処理の広域応援計画の作成	ソフト		○	○	○	○			○
	2	流出した危険物への的確な対応	・危険物が流出した場合に的確に対応するための方針について検討する	流出した危険物への対応方針の検討	流出した危険物への対応方針の検討	ソフト		○	○	○	○			○	
	【目標23】 人権に配慮した防災対策を推進する	1	人権に配慮した防災対策の推進	・あらゆる人が防災対策に参加しやすい環境づくりを構築する ・相互理解を深める機会を創出する	関係主体者の参加機会の促進	交流イベントの企画・実施への支援 (防災シンポジウム、防災イベントの企画、参加案内等)	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○
あらゆる主体者の協力関係の構築					災害時における人権についての講演会・研修等の実施	ソフト	○	○	○	○	○	○	○	○	